

令和 7 年第 4 回京丹波町議会定例会 所 信 表 明

令和 7 年 1 月 9 日

師走を迎えまして、何かと慌しい昨今となりました。

本日ここに、令和 7 年第 4 回京丹波町議会定例会をお願いいたしましたところ、議員各位におかれましては、公私何かとご多忙の中、ご参集いただきまして、誠にありがとうございます。

定例会の開会にあたり、2期目の町長就任に際しまして、町政運営の所信の一端を申し述べる機会をいただきましたことは、誠に光栄であり、衷心よりお礼を申し上げます。

この度の町長選挙におきまして、町民の皆様の負託を受け、継続して町政運営にあたらせていただくこととなりました。今後の京丹波町の未来において、まさに「成長期」さらには「隆盛期」とならなければならぬこの時期に、その大役を担わせいただきこととなり、責任の重さとともに、改めて身の引き締まる思いであります。

私は、令和 3 年 1 月の町長就任以来、少子高齢化が進む中でも「元気、希望、笑顔のあふれるまちづくり」を掲げ、町民の皆様のための施策に全力で取り組んでまいりました。

この期間を将来発展への黎明期と位置づけ、各種施策の見直しと新規・拡充の事業を積極的に推進してきたところです。その政策の具体的な柱として「健やかで幸せな食のまち」「教育と子育てのまち」「人のふれあいを感じるまち」を掲げ、まちの成長につながる施策の『種をまき、より具体的に見える化し、芽吹いた事業が結実させる』ことに全身全霊で精力的に取組み、1期目の4年間で 179 の新規・拡充事業に取り組むことができました。

このことは、議員の皆さんとの深いご理解と、多くのご意見を参考にしながら取り組むことができ、京丹波町の将来につながる具体的な成果を数多く残せたことで、町民の皆様の安心感につながったものと考えております。本町の政策に取り組む姿勢は、今や京都府をはじめ、府内の各自治体、また全国的にも注目されているという実感をもっておりまます。

一方、この4年間で人口はさらに約1,200人程度減少し、高齢化率も44.92%となり、少子高齢化に歯止めがかかっていない現状です。移住者は増加傾向にあるものの、今後集落の維持も危ぶまれる事態も想定されます。

私は、常に多くの町民の方とお出会いし、お話しする機会を得て様々な思いをお伺いすることが大切であると考え、皆様から頂いたご意見等にはしっかりとお応えしていかなければならぬと考えております。議員各位並びに町民の皆様の深いご理解とご協力をお願い申し上げる次第であります。

わがふるさとの現状を改めて見てみると、観光入込客数は京都市、宇治市に続く来訪者があり、農業における生産額では府内26市町村の中で第3位であることなど、実はこのまちにある全ての「ヒト、モノ、コト」などの潜在的 possibility は、極めて大きいものがあり魅力に満ちていることを、町民の方だけでなく、多くの町外の方々に知っていただき、「まち」の枠を超えた「京丹波町を愛する想いでつながるコミュニティ」を育むことが必要だと考えております。

それでは、私の任期中における町政運営の所信の一端を申し上げたいと存じます。

私は、今回の選挙で掲げておりました私の理念である「みんなで 元気 希望 笑顔のあふれる京丹波町に」の実現に向けてさらに邁進してまいりたいと考えております。

幸せで健やかに安心して暮らせるまちづくりを進める上において、「元気」、「希望」、「笑顔」、この3つは不可欠であり、どれが欠けても成しえることができません。

いつも町民の皆様が、元気で、希望に満ちあふれ、笑顔で過ごせる、そんなまちづくりを目指し次の重点施策に取り組んでまいります。

まず、「健やかで幸せなまちづくり」であります。

分水嶺に位置する本町は、古より交通の要衝でもあり、気候風土が作り出す農林産物は、美しく豊穣な自然が生み出す宝であります。フードバレー構想に基づく持続可能な地域づくりを通じて、その付加価値を益々高める農林業の振興に取り組みます。

「食といえば京丹波」というブランド力をさらに全国に発信するなど、これまで取り組んできた「京丹波くりの振興」をはじめ、カーボンクレジット事業による林業振興にも積極的に取り組みます。

また、町民の皆様が健やかに日々の生活を営んでいただくことは、まちの勢いにつながる重要な要素であると考えております。

ウェルネスタウン構想に基づき実施してきたウォーキングポイント事業やがん患者アピアランス支援事業に加え、より地域に身近な医療の充実、健診の充実や、福祉施策と一体的に連携しながら町民の皆様の健幸につながるまちづくりを進めてまいります。

続いて「教育と子育てのまちづくり」であります。

京都府が進める「子育て環境日本一」の理念と連携する中で、府内トップクラスの環境整備を進めるため、すこやか子育て支援金制度の実施、また保育ICTシステムの導入による教育保育の質向上に努めてまいりました。

また、小中学校などにおける学習環境においては、トイレ改修、大風量スポットエアコンの導入や蒲生野中学校体育館へのガスヒートポンプエアコンの整備など熱中症対策の強化に加え、放課後児童クラブの環境充実、学童保育施設の新築など先進的に取り組んできたところです。

とりわけ本町における令和6年度の出生数は35人であり、まちの将来を担う子どもたちを取り巻く環境は、今後のまちづくりの中でも大変重要な課題であると認識しており、就学前教育・保育から小学校、中学校、高等教育に至る一貫した教育・子育て支援について、引き続き検討してまいります。

併せて、町民の利便性向上を目的に、大型商業施設への公共施設機能の移転についても、町民の皆様の意見をふまえ議論を深め、よりよい方向性を見出してまいります。

また、食のまちとして安全安心な学校給食の提供についても、さらに取組を進めてまいります。

次に「人のふれあいを感じるまちづくり」であります。

まちの安全安心を守りぬくためには、行政の取組だけでは昨今の災害に対応することは困難であると考えており、地域全体で持続可能なコミュニティの維持についても大きな課題となっています。町民の皆様のご意見を伺いながら、それぞれの地域における議論を深めていただき、行政と地域のあり方についても検討してまいりたいと考えております。

また、人口減少社会にあって本町の取組に共感いただきながら、「まち」の枠を超えて、「想いでつながるコミュニティ」の形成に向けて、(仮称)京丹波町ふるさと住民制度の創設に取り組んでいきたいと考えております。

併せて、通行止めや危険箇所の解消のほか、生活圏の拡大による移住定住促進など、町の発展には欠かせないものと考える国道9号観音バイパス整備促進や、畠川ダム周辺整備事業、福祉施策の充実などにも、積極的に取り組んでまいります。

最後に、本町が推進してきた施策をより分かりやすく発信することや、町民の皆様の意見を聞く場づくりに、より一層取り組むため「わかりやすい情報発信による行政の見える化のまちづくり」に取り組んでまいります。

これまで取り組んでまいりました、タウンプロモーションのさらなる推進や重点施策と併せて、「関係人口とともにつくる京丹波町構想の策定」を行い、まちに若者を取り戻すことを目指して、今後10年間で「1万人の関係人口」、ふるさと納税等の拡大による「100億円の外部資金獲得」、「100件の成長プロジェクトの創出」を図り、町内外から人材、資金、知恵を呼び込んで、「行政の稼ぐ力」を向上させ、「豊かで幸せな自治体」として持続可能な発展に向けて取り組みたいと考えております。

以上、私の町政運営の所信を申し述べさせていただきました。

しかし、これまでから常に申し上げてきておりますとおり、まちづくり施策は私ひとりで到底成しえるものではございません。議決機関であります議会や町民の皆様のご意見を伺いながら、公約の実現に向け、職員と一丸となって緊張感をもち、元気と希望と笑顔のあふれる京丹波町のまちづくりに、皆様と一緒にになって取り組んでまいる所存でありますので、どうか議員各位並びに町民の皆様には、今後の町政運営に格段のご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げまして、町長就任の所信表明とさせていただきます。